Archive for 4 月 2023

生成 AI で世論操作？

生成 AI は，一般向け Bing と ChatGPT を一昨日，初めて，ほんのちょっと使ってみただけ。全くの素人だ。が，それにもかかわらず，生成 AI のあまりの有能さにビックリ仰天，これは大変なことになった，と寒気を覚えた。

■朝日新聞 2023/04/30

このような革命的な新技術が現れたとき，人がまず思いつくのは，金儲けと世論操作。実業家であれば，革命的経費削減（とりわけ人件費）・事業拡大で大儲けができるとほくそ笑むにちがいない。また政治家なら，生成 AI にひそかに細工し，都合の良い方向に世論を誘導しようと考えるはずだ。これは自然な人情，止めようがない。

■朝日新聞 2023/04/30

いずれも心配だが，いまの私にとって，より気がかりなのは，生成 AI の政治利用の方。Bing や ChatGPT は親米の，「文心一言」は親中の，世論形成のために利用されるのではないか？　たとえば，「文心一言」の「契約特記事項」では，こう明記されている（Google 自動翻訳）。

3．利用規則

1.‥‥以下の行為を含むがこれらに限定されない違法または不適切な活動を行わないことに同意するものとします。‥‥

2)国家安全保障を危険にさらし、国家機密を漏らし、国家権力を転覆させ、国家の統一を損なう。
3)国家の名誉と利益を害する。‥‥
11)国家主権および領土保全の侵害、地図の作成および公開に関する関連する国内規制の違反を伴う可能性のあるコンテンツ。‥‥
6)風説を流布し、社会秩序を乱し、社会の安定を損なうもの。‥‥
5．‥‥以下のインターネットの収益を遵守します。1)法規制のボトムライン 2)社会主義システムのボトムライン 3)国益のボトムライン ‥‥
自動翻訳からの一部抜粋で少々分かりにくいが，この警告だけを見ても，AI の政治利用が決して単なる杞憂でないことは明白だ。むろん，Bing や ChatGPT にしても，「文心一言」ほどあからさまではないとしても，政治的に操作しようと思えば出来ないわけがない，と見るべきだろう。

AIめぐる日米欧の違い鮮明も、中国念頭に緩やかな連携へ
規制 G7 活用
EU チャットGPTに関する作業部会を設置
? 米国 AI規制案の検討開始。一般からの意見募集も
総務省、経済産業省、デジタル庁の各大臣が利用に前向きな発言 日本
G7で連携の必要性
警戒・対抗
中国・ロシア
・国民監視など非民主主義的な利用
・世論操作をねらった偽情報の拡散

G7、中ロのAI「悪用」警戒

異なる立場 緩やかな連携めざす

デジタル相会合

■朝日新聞 2023/04/30

といっても，今の私は生成 AI 超初心者，このような大問題は，取り組むには荷があまりにも重すぎる。そこで，とりあえず「ネパール」について，いくつか生成 AI に質問し，どのような回答が得られるか，検討してい行くことにしたい。

なお，「文心一言」は最も興味深くはあるが，まだ試用が始まったばかりなので，今回は割愛する。

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa 編集

2023/04/30 at 12:58

カテゴリー: 社会, 経済, 情報, 情報 IT, 政治, 文化, 民主主義

Tagged with AI, チャット AI, 情報化, 世論

生成 AI：21 世紀の文化大革命

今朝，遅まきながら生成 AI（チャット AI）を使ってみた。ビックリ仰天！ 「21 世紀の産業革命」と呼ばれるのも，もっともだ。というよりもむしろ，これまでの人間文化を根底から覆す「**21 世紀の文化大革命**」となる可能性ー危険性ーが大だ。人工知能（AI)が，人間の知能より高性能となり，人間にとって代わって考え，働くようになる。**人間文化から AI 文化へ！**

＊生成（生成的）AI＝Generative Artificial Intelligence。今朝使用はマイクロソフト Bing。OpenAI 社の製品名は「チャット GPT」

■朝日新聞 2023/04/24

このような危惧に対し，たいてい「AI はいくら高効率でも創造性はないから，使い方さえ誤らなければ，それはあくまでも人間の道具であり，人間にとって危険なものではない」との反論がなされる。

が，これは単なる申し訳であり，気休めにすぎない。チャット AI を数分でも使ってみれば，それが自分よりもはるかに博識で，想像力≒創造力に富んでいることを認めざるをえなくなる。

AI 革命は，「技術」革命・「産業」革命にとどまるものではなく，事実上，「**文化**」革命。これから先，思いもよらぬことが次々と起こり始めることは，まず間違いない。

■AI に前のめりの日本。朝日新聞 2023/04/26

日本にいて，すぐ思い当たるのは，何といっても教育。たいていの先生は，すでにチャット AI にかなわない。当然，生徒・学生は，先生よりも AI に質問し，学ぶようになる。先生も学校も不要。しかも，その上，AI からいくら学んでも，人は誰も AI より賢くはなれない。**AI 支配のデストピア！**
――と，こんな風に見るのは，ちょっと悲観的すぎかな？　なんせチャット AI は，今朝，初めて使ってみたにすぎないから。

これから先，チャット AI を質問攻めにし，答えてもらって，その知識や性格や振る舞い方を最大限理解し，その上で，それとの健全な交際の仕方を見つけ出していくことにしたい。

チャットGPTルール模索

企業の活用 情報漏洩・法令違反リスク

■朝日新聞 2023/04/25

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa 編集

2023/04/26 at 11:41

カテゴリー: 社会, 経済, 情報, 情報 IT, 教育, 文化

Tagged with AI, チャット, デストピア, Bing, 生成 AI, GPT, 文化革命, 人工知能

セピア色のネパール(16):「古き良き」国会議事堂

1990 年代のネパール議会は，それ以前と同様，シンハダルバール（सिंहदरबार 獅子宮殿）のガディ［ギャラリー］バイタク（गद्दीबैठक 聖殿／会所）で開催されていた。ネパールは，1990 年民主化運動の成功により民主化されたとはいえ，まだ王国であり，ガディバイタク国会議事堂にも「古き良き王国」の雰囲気が色濃く残されていた。

1 シンハダルバールのガディバイタク

ガディバイタクのあるシンハダルバールは，ラナ将軍家統治時代の首相チャンドラ・シャムシェル・JBR（在位 1901–29）が，首相就任後に建設に着手し，1908 年に完成させた豪華絢爛たる大宮殿。ラナ家の権威と権力を象徴する宮殿として代々ラナ家が使用してきたが，王政復古（1951）でラナ家が失権すると，宮殿は王国政府が国家諸機関の官庁として使用することになった。
そのシンハダルバールの敷地内に，ジュッダ・シャムシェル・JBR 首相（在位 1932–45）が，首相就任後，建設に着手し，1937 年に完成させたのが，ガディバイタク。西洋新古典主義とネワールの様式を採り入れた，これまた豪華な建物であり，主に外国要人接遇のために使われていた。

このガディバイタクも，王政復古後，王国政府のものとなり，議会発足の 1959 年から内戦終息・国王失権の 2006 年まで，王国議会下院（代議院）が議場として使用してきた。

■シンハダルバール正面(1992)

■ガディバイタク前。陳情団か？（1993）

■ガディバイタク玄関

■ガディバイタク正面屋上看板「代議院」（1993）

2　ガディバイタク見学

そのガディバイタク国会議事堂の見学に行ったのは，1993 年のこと。本会議場に入ると，正面上方に国王肖像画，その下方に豪華な玉座があり，議場を権威づけていた。

議員の席は，当初，109 席程度だったようだが，議員数が 120~134（1980 年代国家パンチャーヤト），205（1990 年憲法下院定数）と増えていくと，足りなくなったはずなので，おそらくそれに合わせて増設されていったのだろう。が，1993 年見学時撮影の写真を見ると，150 席前後しか写っていない。本会議のとき，どのように着席していたのだろう？　英国議会に習い，ベンチ式となっていたのだろうか？

それはともかく，ガディバイタクの議場は，豪華だが，議員相互の息吹・表情が直に感じ取れるほど稠密な空間であり，側面の傍聴席から見学していると，与野党の議論は丁々発止，なかなか迫力があった。王制下で権限が限定されていたとはいえ，そこには確かに討議・討論があった。

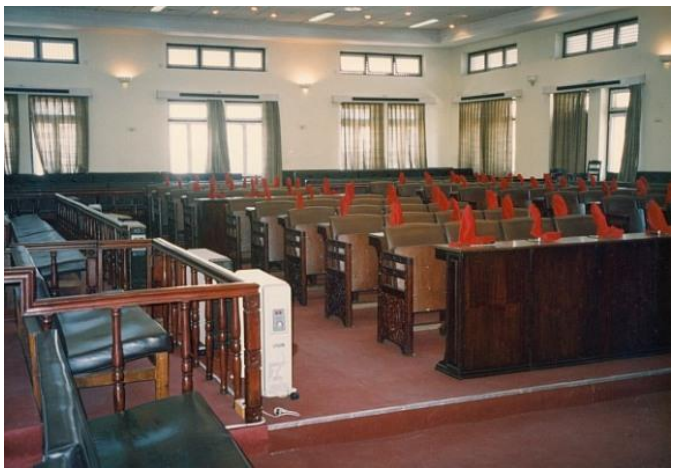
■下院議場

■玉座と議長席

■傍聴席（議場左右両側）（1993）

［**補足**」ちなみに，上院の方は，1990 年憲法体制以前にはどこで会議を開いていたのか，はっきりしない。1993 年見学時には，上院棟は下院棟とは別にあり，議場もまるで教室のようで，極めて質素。これはこれはと，拍子抜けした記憶がある。

■上院棟（1993）



■上院議場

■上院議長席

3　マオイスト紛争終結・議会解散・連邦共和制成立

しかしながら，1990 年立憲君主制憲法下の議会は，権限が弱く，議論はしても実行力が十分には伴わなかった。そのため，1996 年勃発のマオイスト紛争（内戦）も解決できず，2006 年にマオイスト優位で停戦，翌 2007 年には議会は暫定憲法制定後，結局，解散となってしまった。

そして 2008 年には，暫定憲法に基づき，新たな国家体制を決めるための制憲議会選挙が実施され，そこで選出された制憲議会が王制を廃止し，ネパールを連邦民主共和制とすることを宣言するに至ったのである。

4　議場移転：ガディバイタクから国際催事場へ

さて，そこで，ここでの問題は**議場**。ガディバイタク国会議事堂は，議場それ自体に権威が感じられ，そこでの議論も活発であったが，いかんせん議会には十分な法的権限がなかった。これに対し，王制廃止後のネパールの国権の最高機関は，国会（制憲議会 2007-15/連邦議会 2015-）となった。これは明白。では，この最高機関たる国会は，これまで，どの**議場**で開催されてきたのか？

2007 年暫定憲法では，諸勢力の要求を最大限飲まざるをえなかったため，制憲議会の議員定数も膨らみ，結局 601 となった。議員数 601 ともなると，ガディバイタクには到底入りきれない。そこで，制憲議会は，ニューバネスワルの「国際催事場(International Convention Centre)」で開催されることになった。

この「国際催事場」は，中国援助で 1993 年に建設された威圧されるほど巨大な催事場。私は，2010 年 9 月，そこで行われた首相選出本会議を見学に行ったことがある。制憲議会は，全員出席すれば，議員だけでも 601 人いるので，本会議場は巨大なスリ鉢状ホールで開催されていた。【参照】首相選挙、見学

議長，各党幹部，役職者らは，壇上か前方の席，陣笠議員や傍聴者はスリ鉢状後方の席。質疑は拡声器を通して聞こえてくるが，演壇ははるか彼方，表情など到底読み取れない。“これは観衆向けの一方的演説の応酬であって，質疑応答を通して合意を見出そうとする民主主義的議論の場ではないなぁ”と，いたく失望したことを覚えている。

それでも，ともかくも制憲議会で 2015 年，連邦民主共和制の「ネパール憲法」が成立，国会の議員定数は下院（代議院）275，上院（国民院）59 となった。

ところが，国会の議場は，依然として，あの国際催事場。たしかに議員定数は，制憲議会の 601 から，下院 275 へと約半数になった。また，各種委員会は，それぞれ適切な広さの会議室で，それぞれ会議を開いているのであろう。たしかに，それはそうであろうが，もし本会議が今もあの大ホールで開かれているとするなら，たとえ民主的に選出された議員からなる国会といえども，そこで本当に実のある民主的な議論ができているかどうかは，大いに疑問である。

■国際催事場

5　新議事堂建設へ

これはネパール政府も当初から危惧していたことであろう。といっても，ガディバイタクには数百もの議員席はつくれない。そこで，結局，ネパール政府は，別に新たな国会議事堂をシンハダルバールに建設し，ガディバイタクは観光用として一般公開することにした。

このネパールの新議事堂は，中国・ネパール共同企業体が受注し，定礎式が 2019 年 9 月に行われた。数年で完成の予定。下院（代議院）400 席，上院（国民院）100 席の議場に加え，議員ロビー，VIP ルーム，図書館，博物館，政党控室，レストランなども整備される予定。

この建設中の新議事堂は，国際催事場ほども巨大ではないが，いかにもネパールらしく，やはり結局は相当豪華・壮大なものとなりそうだ。

むろん，国会議事堂の建物で国家の威厳を示すことは，どの国でも多かれ少なかれ行われている。が，議事堂に本当に必要なのは，実りある建設的な議論醸成のための場であること。これはいうまでもない。

ネパールの新議事堂には，ガディバイタクのような絢爛豪華さは不要だが，ガディバイタクが醸し出していた熟議討論の場としての雰囲気だけは，ぜひとも継承してほしいと切に願っている。

【注】

*1 PR Pradhan, “Who built Gallery Baithak?,” Peoplesreview,2019/12/18

*2 Gyan P Neupane, “NRA to retrofit Gallery Baithak,” Republica,2017/02/22

*3 “New building for federal parliament to cost Rs5 billion rupees: Country’s first-ever parliamentary building is expected to be ready in three years,” Kathmandu Post, 2019/09/18

*4 “Prime Minister Oli lays foundation stone of Parliament building,” Himalayan News Service, 2019/09/19

*5 “Inventory of 19th and 20th Century Architectural and Industrial Heritage of Nepal,” Vol.I,1st Ed.,ICOMOS Nepal,April 2020

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa 編集

2023/04/24 at 18:43

カテゴリー: ネパール, マオイスト, 議会, 憲法, 政治, 民主主義

Tagged with ガディバイタク, シンハダルバール, ラナ家, 熟議, 討論, 議場, 議事堂, 議会, 国王